



—東地中海地域ニュース—

トルコ：プーチン・ロシア首相およびベルルスコーニイ首相のトルコ訪問
(8月7日付現地各紙)

8月7日付現地各紙は、プーチン・ロシア首相とベルルスコーニイ首相の訪問について報じた。概要は以下のとおり。

1. 3国首脳会議の実現

6日、プーチン・ロシア首相がアンカラを訪問し、エルドアン・トルコ首相と約1.5時間の会談を行った。この会談には途中からベルルスコーニイ首相も出席した。ベルルスコーニイ首相の出席は今回合意されたエネルギー関連プロジェクトにイタリア企業が参加しているためである。

その後、プーチン首相はギュル大統領を表敬訪問し約1時間会談した。プーチン首相のトルコでの滞在時間は約6時間であった。

2. トルコ・ロシア間のエネルギー分野での合意

3国首脳会談の後、エルドアン首相とプーチン首相は、エネルギー分野での協力に関する合意に署名した。

- (1) 現存の天然ガス・パイプラインであるブルー・ストリームをキプロス、イスラエル、レバノン、シリアまで延長する。
- (2) トルコは、ロシアが重視するサウス・ストリーム（天然ガス）パイプラインのトルコ専管水域（領海との報道もある）の通過を認める。トルコは、ロシアによるこの海域での同プロジェクト・フィージビリティ調査実施を許可した。（これが実現すればサウス・ストリームはウクライナの領域をバイパスして西欧に達することができる。サウス・ストリームはロシア及びイタリアのEni社が請け負っている。）
- (3) ロシアはサムスン・ジェイハン石油パイプラインに石油を供給する。（同パイプラインの事業主は、エルドアン首相の娘婿が取締役を務めるチャルック・グループで、またこの事業にもイタリアのEni社が参加している。）さらに両首相は原子力エネルギーの平和的利用に関する協定にも署名した。

3. 協定署名後のトルコ・ロシア両首相の発言概要

(1) エルドアン首相

- ①ロシアとの相互信頼及び共通の利益に基づく関係強化はトルコ外交の主要目的の一

つである。

- ②毎年1回、両国の多方面にわたる戦略的協力について話し合うため首相レベル協議を実施していく事に合意した。この第1回会談は2010年初めにロシアで実施される。さらには年に2、3回各担当大臣レベルで協議を実施していく事を目指す。
- ③観光分野における両国協力は重要であり、ロシア語を話すより多くのトルコの若者が必要となるであろう。その意味でトルコ・ロシア高校及び大学の開設を提案したが、プーチン首相からも肯定的な回答を得た。

(2) プーチン・ロシア首相

- ①エルドアン首相と広範囲における合意に達することが出来た。
- ②トルコの原子力発電所建設計画において我々は好条件の提示をしていると考える。
(正式の契約合意は結ばれていないようであるが、プーチン首相が記者会見で「トルコとロシアのコンソーシアムがこの建設計画を落札した事はロシアにとって名誉なことだ」と発言し、実質的合意の成立を示唆したとの報道もある。)

4. 両国間の合意事項

今回の会談において、上記3の他「科学・技術分野での協力」、「文化交流プログラム」、「税関業務」等の計12の政府間合意、及び両国民間企業間の8つの合意が結ばれた。